關於「切る」「切れる」的語意對應與不對應
－以『基本動詞手冊』的記述為本－

王淑琴

政治大學日本語文學系副教授

摘要

本稿以在日語教育上的應用為目的，以『基本動詞手冊』的記述為本，有系統的記述「切る」「切れる」在語意上的對應及不對應之處，並提供使用語料庫及語料庫工具於語言記述上的研究方法。

當「切る」表具體的動作之意時，使用特定的工具或方法完成動作的事態無法有對應的自動詞用法。反之，不指定特定的工具或方法的事態則其自動詞用法能成立。當「切る」的語意抽象化時，使用特定工具或方法的用法之衍生用法，由於無法聚焦於事態的結果狀態，因此無法有對應的自動詞用法。而許多語意抽象化的「切る」都有對應的自動詞用法，這是因為這些動作對於對象物的影響較小，因此可以聚焦於事態的結果狀態。另一方面，若由「切れる」來看跟「切る」的語意對應關係，當把某狀態視為像自然現象般無法由外力控制時，或是主語為人時無法有對應的他動詞用法。此外，亦有無生物主語他動詞句、反身動詞句等非典型的他動詞句，以及語意慣用句化的的用法。透過本稿的考察，釐清了「切る」「切れる」之間的複雜的語意對應關係。

關鍵詞：語料庫，『基本動詞手冊』，自他對應，工具・方法的指定，控制性

受理日期：2018.08.31

通過日期：2018.11.09

台灣日語教育學報第三十一期

Correspondence of meaning of “kiru” and “kireru”: Based on the descriptions of “Handbook of usage of Japanese basic verbs”

Wang, Shu-Chin

Associate Professor, Chengchi University, Taiwan

Abstract

This paper aims to systematically describe the correspondence of the meanings of "kiru" and "kireru" based on the semantic description of “Handbook of Usage of Japanese Basic Verbs”, to apply the results to Japanese language education, and to propose as an approach of using corpus and corpus tools to describe language.

When "kiru" represents the meaning of a specific motion, the situation of using specific tools and methods does not have corresponding intransitive usage and also the case of reverse. When the meaning of "kiru" abstracts, the meanings derived from the meaning representing the situation using specific tools or methods do not have corresponding intransitive usage, because it is difficult to focus on the result state. On the other hand, when a situation that cannot be controlled by external force like a natural phenomenon, or when the subject indicating human, it does not have corresponding transitive usage. There are also inanimate transitive construction, reflexive construction, and the idiomatic meaning. The complicated semantic correspondence of "kiru" and "kireru" was revealed in this paper.

Keyword：corpus, “Handbook of Usage of Japanese Basic Verbs”, correspondence of meaning of transitive and intransitive verbs, specification of tool or method, controllability

台灣日語教育學報第三十一号

「切る」「切れる」の意味の対応・不対応について
―『基本動詞ハンドブック』の記述をもとに―

王淑琴
政治大学日本語文学科准教授

要旨

本稿は、『基本動詞ハンドブック』の記述をもとに「切る」「切れる」の意味の対応・不対応を体系的に記述し、日本語教育への応用を図るとともに、コーパスとコーパスツールを言語の記述に利用する一つの研究方法として提案したい。

「切る」が具体的な動作の意味を表す場合、特定の道具や方法を用いて動作を完遂させる事態が対応する自動詞表現を持たない。逆に、「切る」が道具や方法を指定しないものはその自動詞用法が成立する。「切る」の意味が抽象化した場合、特定の道具や方法を用いる動作を表す意味から派生される意味は、結果状態に焦点を当てることが難しく、対応する自動詞用法を持たない。抽象化した「切る」の意味の多くは対応する自動詞用法を持つが、それらが「対象への影響」が薄いため、事態の結果状態への焦点化が可能となる。一方、「切れる」から「切る」との対応関係を見ると、ある状態を自然現象のように外力でコントロールできない現象として扱う場合、或いは人間を主語に取る場合は対応する他動詞用法を持たない。また、無生物主語他動詞文、再帰構文のような非典型的な他動詞文や意味が慣用句化したものもある。本稿の考察により、「切る」と「切れる」の複雑な意味的な対応状況が明らかとなった。

キーワード：コーパス、『基本動詞ハンドブック』、自他対応、
道具・方法の指定、コントロール性

台灣日語教育學報第三十一期

―『基本動詞ハンドブック』の記述をもとに―

王淑琴
政治大学日本語文学科准教授

1.研究目的

日本語における自他動詞の意味の対応・不対応は大きな研究課題であり、今まではさまざまな観点から取り上げられている。今まで自他動詞の意味の対応・不対応を考える際に辞書の意味記述や作例に頼って考えるのが一般的であるが、意味の記述が体系化されておらず、また、実例の提示が少ないことから日本語教育への応用が難しい。本稿は、『基本動詞ハンドブック』(3節参照)の意味記述をもとに、「切る」「切れる」の意味の対応・不対応を体系的に記述し日本語教育への応用を図るとともに、コーパスとコーパスツールを言語の記述に利用する一つの研究方法として提案したい。

『基本動詞ハンドブック』における自他動詞ペアが現在 23 組あるが、その中から「切る」「切れる」を取り上げるのは、意味の数が多く対応関係が複雑だからである。本稿の記述をもとに考察する動詞のペアを増やしていけば、日本語の自他動詞の意味的な対応パターンを解明することができると考える。以下では、2節で先行研究、3節で資料収集と処理方法、4節で考察結果を述べる。

2.先行研究

日本語における自他動詞の意味の対応・不対応を対応の類型から考察するものと、自他交替の観点から考察するものがある。前者は沼田(1988,1989)、西尾(1988)があり、後者は影山(1996)をはじめ、鷲尾・三原(1997)、Matsumoto(2000)、須賀(2000)、佐藤(2001)でも一部指摘されている。本稿の目的は個別の動詞ペアの意味の対応・不対応を包括的に記述することなので、前者を取り上げる。自他動詞の意味の対応・不対応を包括的に考察したのは沼田(1989)である。沼田

台灣日語教育學報第三十一期

は、自他対応を持つ意味の場合は他動詞の主語が有情物で動詞は意志動詞、自動詞の主語が無情物で動詞は無意志動詞であることが多いとし、この特徴をはずす((1b))と対応を欠きやすくなると述べている。

(1)a.太郎が家をたてる。　（他動詞・有情物・意志動詞）
　　→　家がたつ。　（自動詞・無情・無意志動詞）
　b.太郎が次郎をたてる。　（他・有情・意志）
　　→　*次郎が立つ。　（自・有情・意志）
（沼田 1989：200）

また、沼田（1989）は上記の原則はおおよその傾向であり、その例外が多いことを指摘している。例えば、次のように自動詞の主語が有情物で自他対応が成立し、自動詞の主語が無情物なのに自他対応が成立しない例が見られる。

(2)a.ジョンソンがルイスをやぶる。　（他・有情・意志）
　b.ルイスがやぶれる。　（自・有情・無意志）
(3)a.ジョンソンがルイスの記録をやぶる。（他・有情・意志）
　b.*ルイスの記録がやぶれる。　（自・無情・無意志）
　（沼田 1989：201）

沼田(1989)は、自他動詞の意味的対応の欠落の要因を考察し、自他対応の典型的なものとそうでないものを明らかにしているが、個々の語について詳しく考察する必要があるとも述べている。個別の自他動詞ペアの意味の対応・不対応を詳しく考察したものには、「かける・かかる」を考察した西尾(1988)、「上げる・上がる」を考察した沼田(1988)がある。西尾(1988)は、『外国人のための基本語用例辞典』における「かける・かかる」の意味用法をもとにその対応状況を考察し、「かける・かかる」は「多岐にわたる用法のうちのかなりな範囲にわたって対応が見られ」る（p.186）ことが明らかとなった。沼田(1988)は『外国人

台灣日語教育學報第三十一号

のための基本語用例辞典』や国語辞典を参考にし、「あげる・あがる」の意味的な対応について、「移動の経路のヲ格をとる」「対象のヲ格が有情物」「一方が固定連語をなす」「もっぱら状態的意味で用いられる『上がる』」「意図的に制御不可能な生理現象・自然現象を表す」場合は意味が対応しておらず、それ以外は対応していると指摘している。西尾(1988)と沼田(1988)は用例辞典や国語辞典の記述に基づき語の意味と用例を収集しているが、そのような方法でリストした意味の数が多く、意味の対応・不対応の状況を類型化するのが難しい。

一方、鷲尾・三原(1997)、須賀(2000)、佐藤(2001)は自他交替の観点から「切る・切れる」の意味が対応していない現象に触れているが、その詳しい対応状況を述べていない。例えば、須賀(2000)は「ロープ／電話が切れる」などでは自動詞としての解釈がなされるが、「切符を切る」に対して「切符が切れる」とは言わない理由は、「『切符を切る』という行為の場合は、表現上、その行為の存在が問題とされるため、行為の主体を潜在化する必要がないからである」(p.121) としているが、それ以上のことを指摘していない。『基本動詞ハンドブック』の記述をもとに「切る」「切れる」の意味の対応・不対応を体系的に記述し、また、コーパスとコーパスツールを言語の記述に利用する一つの研究方法として提案することが本稿の目的である。

3.資料収集と処理方法

BCCWJ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』)の構築によりそれを利用したコーパスツールも充実され、より実際の言語使用を反映する意味記述が可能となる。NINJAL-LWP for BCCWJ(NLB)はその一つである。『基本動詞ハンドブック』(http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/) は語義ごとの文型(格パターン)、コロケーション、コーパスからの用例、誤用解説など、ほかの国語辞典には見られない豊富な情報を提供しているが、その執筆の際に主に NLB (NLT[1]も含む) が利用されている (赤

[1]NINJAL-LWP for Tsukuba Web Corpus の略である。使われるコーパスは 11 億語の筑波ウェブコーパスである。

台灣日語教育學報第三十一期

瀬川など 2016)。『基本動詞ハンドブック』における意味記述は、例えば、「＜人＞が＜道具＞で＜もの＞を切る」のように、動詞の意味を構文のレベルで表示し、また、格助詞がとる名詞（＜　＞の中の名詞）の意味をまとめて意味分野のレベルで表示するので、動詞の意味を体系的に記述できるというメリットがある。さらに、多義語の別義間の派生関係も示されており、それを意味記述の研究にも応用できる。自他動詞の対応は語レベルで捉えることができず、格関係といった文レベルでなければ対応か否かを決められない(三井 1992 参照)ので、動詞の意味を構文のレベルで記述する『基本動詞ハンドブック』は自他動詞の意味的な対応を考える際の強力なツールとなる。

自他対応の定義について、本稿は佐藤（2005）にしたがい、意味、形態、統語の三つの条件をすべて満たす場合とする。

(4)自他対応の定義

a.意味的条件：自動詞文と他動詞文が同一の事態の側面を叙述していると解釈可能である。

b.形態的条件：自動詞と他動詞が同一の語根を共有している。

c.統語的条件：自動詞文のガ格と他動詞文のヲ格が同一の名詞句で対応している。

「切る・切れる」は(4b)の形態的条件を満たしているが、他動詞文「X が Y を切る」のヲ格名詞と自動詞文「Y が切れる」のガ格名詞が同じで、自動詞文と他動詞文が同一の事態の側面を述べる場合は(4a)(4c)も満たされ、自他の意味が対応すると判断する。また、上で述べたように、『基本動詞ハンドブック』は格助詞がとる名詞を意味分野のレベルで表示するので、自他対応の例が一つあれば意味が対応するものとする。例えば、「＜人・動物＞が＜もの（線状）＞を切る」と記述される意味について、＜もの(線状)＞の意味を持つ名詞には「糸、テープ、尻尾、鎖、首輪、釣り糸、テグス」が示されているが、そのうち一つでも「切れる」と対応する（つまり、「切れる」の主語名詞に

台灣日語教育學報第三十一号

なる）名詞があれば、対応する自動詞用法を持つものとする。

『基本動詞ハンドブック』に示される用例は限られているので、対応する自他動詞用法がない場合は BCCWJ で用例を探し、BCCWJ で用例があれば意味が対応するものと扱う。『基本動詞ハンドブック』に示されず、BCCWJ でも見つからない場合は、意味が対応しないものと扱う。

4. 考察

4.1「切る」「切れる」の意味の対応状況

３節で述べた処理方法に基づいて『基本動詞ハンドブック』における「切る」「切れる」の意味の対応・不対応を分析し、その結果を次の表にまとめた（意味の前の番号は『基本動詞ハンドブック』における番号である）。「無生物主語他動詞文」「再帰構文」のような非典型的な他動詞文と、意味が慣用句化したものは特殊なものなので、分けて記述する必要がある。典型的な自他動詞構文はさらに「切る」が具体的な動作の意味を表す場合と、意味が抽象化した場合に分けられる。以下、4－2 では「切る」がどのような場合に「切れる」と意味が対応している、あるいはしていないかを見る。4－3 では逆の方向から考察して、つまり、「切れる」がどのような場合に「切る」と意味が対応していないかを述べる。さらに、非典型的な他動詞文と意味が慣用句化したものをそれぞれ 4－4、4－5 で述べる。

（表）『基本動詞ハンドブック』の意味記述に基づく「切る」「切れる」の意味の対応・不対応一覧表

		「切る」の意味	「切れる」の意味
典型的な自他動詞文	「切る」「切れる」が具体的な動	2.＜人・動物＞が＜もの（線状）＞を切る	1.＜もの＞が切れる
		12.＜人＞が＜ものの水分＞を切る	4.＜ものの水分＞が切れる
		25.＜人＞が＜操舵装置	BCCWJ では用例が見つ

台灣日語教育學報第三十一号

	作の意味を表す場合	＞を切る	かる
		1．＜人＞が＜道具＞で＜もの＞を切る	
		4．＜人＞が＜閉じているもの＞を切る	
		7．＜人＞が＜人＞を切る	
		9．＜人＞が＜患部＞を切る	
		14．＜人＞が＜段・溝・穴＞を切る	
		13．＜人＞が＜書類＞を切る	
		15．＜人＞が＜形など＞を切る	
		27．＜人＞が＜カード＞を切る	
			5．＜画像＞が切れる
			6．＜連なっているもの＞が切れる
			16．＜もの・燃料＞が切れる
			18．＜移動するもの・道＞が＜方向＞に切れる
			15．＜人＞が切れる
	「切る」「切れる」の	17．＜人＞が＜エネルギー＞を切る	17．＜エネルギー＞が切れる
		18．＜人＞が＜電源・装置・機器・機能＞を切る	7．＜電源・装置・機器・機能＞が切れる

台灣日語教育學報第三十一号

	意味が抽象化した場合	19. ＜人＞が＜通信・接続＞を切る	8. ＜通信・接続＞が切れる
		20. ＜人＞が＜言語活動＞を切る	9. ＜言語活動＞が切れる
		21. ＜人・組織＞が＜契約・支援＞を切る	12. ＜契約・保障・資格・権利・支援＞が切れる
		22. ＜人＞が＜人・組織＞と＜つながり＞を切る	10. ＜人・組織＞と＜つながり＞が切れる
		24. ＜人・組織＞が＜数量＞を切る	11. ＜制限時間＞が切れる
		8. ＜人＞が＜社会＞を斬る（7の派生意味）	
		10. ＜人・組織＞が＜人・組織＞を切る（9の派生意味）	
		11. ＜人＞が＜無駄＞を切る（9の派生意味）	
			13. ＜薬・効力＞が切れる
非典型的な他動詞文	無生物主語他動詞文	3. ＜水・土＞が＜堰＞を切る	3. ＜堰＞が切れる
		26. ＜乗り物・道＞が＜コース＞を切る	
		28. ＜値・日数＞が＜数値・基準＞を切る	
	再帰構文	5. ＜人＞が＜刃物状のもの・原因＞で＜身体部位＞を切る	2. ＜身体部位＞が切れる

台灣日語教育學報第三十一号

		6. ＜人＞が＜身体部位（線状）＞を切る	BCCWJ では用例が見つかる
		23. ＜人＞が＜精神・気持ち＞を切る	14. ＜精神・気持ち＞が切れる
慣用句化した意味		16. ＜人・乗り物・もの＞が＜空気・水＞を切る	
			19. ＜刃物＞は切れる
			20. ＜人＞は（頭が）切れる

4.2「切る」が「切れる」と意味が対応する・対応しない場合

この節では「切る」がどのような場合に「切れる」と意味が対応している、あるいは対応していないかを見る。以下では「切る」が具体的な動作の意味を表す場合と、意味が抽象化した場合に分けて述べる。まず、前者を見る。「切る」の主語が動作主を表し、その動作主が何らかの道具や方法を用いて「～を切る」という動作を完遂させる場合は、自動詞用法が成立しない。次の例が示すように、「切る」の 1.4.7.9.14 は特定の道具を用いて完遂させるものであり、「閉じているものを開ける」「人を刃物などで殺す」「手術で患部を切り取る」「道具で削って溝などを作る」などの行為は特定の道具を使うので、対応する自動詞用法が成立しない（以下では出典が明記されない用例はすべて『基本動詞ハンドブック』のサイトから取ったものである）。

【特定の道具を用いて動作を完遂させるもの】

1. ＜人＞が＜道具＞で＜もの＞を切る

(5)彼は布の端まで縫い終わると、ハサミで糸をチョキンと切った。（*ハサミで糸が切れた）

4. ＜人＞が＜閉じているもの＞を切る

(6)私がその手紙を見つけたときにはすでに封が切られていた。（*封が切れていた）

台灣日語教育學報第三十一号

7. ＜人＞が＜人＞を切る

(7)あいつは何人も人を斬っている[2]。(*人が斬れている)

9. ＜人＞が＜患部＞を切る

(8)「腫瘍がこれ以上大きくなるようだったら、切ろうか？」「でも手術はこわいんです…」(*腫瘍が切れる)

14. ＜人＞が＜段・溝・穴＞を切る

(9)この部品の溝、もう少し深く切ろうか。(*溝が切れる)

次の 13.15.27 は動作の遂行に道具が使われないが特定の方法が使われると考えられる。手形などの書類を発行するには一定の手続きに従わなければならず、また、人が十字の形を描く場合やトランプなどをランダムにする場合も任意の動作ではできず、特定の動作をしなければその結果状態を達成しない。これらの動作は対応する自動詞用法がない。

【特定の方法を用いて動作を完遂させるもの】

13. ＜人＞が＜書類＞を切る

(10)そんなに信用できないならこの場で手形を切ろうか？ (*手形が切れる)

15. ＜人＞が＜形など＞を切る

(11)彼は礼拝堂に入ると跪いて十字を切り、祈り始めた。(*十字が切れる)

27. ＜人＞が＜カード＞を切る

(12)ゲームを始める前に、同じカードが重ならないようにカードをよく切ります。(*カードが切れる)

これに対し、対応する自動詞用法を持つものは「～を切る」の動作を完遂させるのに道具や方法を指定しないものである。例えば、(13)

[2] 「斬る」という表記になっているが、『基本動詞ハンドブック』の用例をそのまま引用したものである。

台灣日語教育學報第三十一期

の「(相手の凧が) 糸を切る」という動作結果はどのような方法で達成してもよく、糸を強く引っ張る、糸を送って摩擦を引き起こす、あるいは糸に刃物をつける方法でも構わない。(15)の「水を切る」の場合も同様に、どのような道具や方法を用いて物の水分をなくしてもいい。「切る」の意味 2.「＜人・動物＞が＜もの（線状）＞を切る」には対応する自動詞用法があるが、意味 1.「＜人＞が＜道具＞で＜もの＞を切る」には対応する自動詞用法がないのはこのためである。

2. ＜人・動物＞が＜もの（線状）＞を切る

(13)けんか凧では、相手の凧に糸を切られたら負けになる。

1. ＜もの＞が切れる[3]

(14)しかし、鳶凧は糸目の下をくぐりぬけ、すいと脇に出た。と、絵武者凧の糸目が二、三本切れたのだ。(BCCWJ)

12. ＜人＞が＜ものの水分＞を切る

(15)「おいしいサラダを作るコツは何ですか？」「野菜の水をよく切ることです。」

4. ＜ものの水分＞が切れる

(16)野菜は水がちゃんと切れていれば、シャキッとした触感が楽しめます。

次の「切る」の意味は上で見た「切る」の 15.27.の意味と同様に、ハンドルを操作するのに特定の動作が必要であるが、BCCWJ では(19)のよう対応する自動詞用法が 1 例見つかる。[4]

25. ＜人＞が＜操舵装置＞[5]を切る

[3]この意味に「糸が切れる」の用例が示されていないので、BCCWJ から取った用例を使う。

[4]それ以外の例は次のように「切れる」が「切る」の可能形として、あるいはほかの意味で使われるものである。

（ｉ）クルマが安定して走るために、ホイールは色々な仕事をしています。例えば、安定して直進できたり、ハンドルがスムーズかつ確実に切れたり、路面から衝撃を受けても直ぐに元に戻ることができたり、といった事柄です。

[5]この意味のヲ格名詞は＜操舵装置＞と表されているが、『基本動詞ハンドブッ

台灣日語教育學報第三十一号

(17)急にハンドルを切ると危ないよ。

(18)うわー！ぶつかる！ハンドル、左に切って！

(19)引き起こす前にハンドルを倒れた側に切ること。左側に倒れた場合は、左に切る。ハンドルが右に切れているままだと、バイクを起こすときの持ち手が伸びきって遠くなり、力を集中させられないため。 (BCCWJ)

25.の意味は、「＜人＞が＜操舵装置＞を切る」という構文で提示されているが、意味的にハンドルが動かされた最後の方向が含まれると考えられる。(18)のような位置変化後の表現を項として取れることからもそのことが窺える。(19)では「右に」という「ハンドルを切る」動作の位置変化後の表現を入れることによって、変化後の結果状態に焦点を当てることが可能になると考えられる。

以上のことをまとめると、「切る」が具体的な動作の意味を表す場合、「切る」の動作主が何らかの道具や方法を用いて「～を切る」という動作を完遂させる場合は、自動詞用法が成立しない。逆に、道具や方法を指定しない場合はその自動詞用法が成立する。また、「切る」の25.の意味のように、動作に最後の変化結果も意味的に含まれる場合は、変化後の結果状態に焦点を当てること可能になるため、自動詞用法が成立する。

佐藤(2005)は「相対他動詞」(対応する自動詞を持つ他動詞)と「絶対他動詞」(対応する自動詞を持たない他動詞)の成立条件を論じ、具体的で物理的な動きを表す例で検証している。「相対他動詞」と「絶対他動詞」との関係について、動作様態の特定性[6]があれば相対他動詞が

ク』ではヲ格名詞が「ハンドル」の用例が大半を占めている。「ハンドル」のほかに「かじ、ステアリング、操縦桿」のコロケーションが挙げられている。筆者がNLBで上記のコロケーションを調べた結果、「ハンドル(110例)／舵(2例)／ステアリング(11例)／操縦桿(0例)を切る」のように、「ハンドルを切る」は圧倒的に多いことが分かり、この意味の代表的な例であると考えられる。したがって、ここでは「ハンドルを切る」の例を取り上げる。

[6] 動作様態の特定性とは、「動詞の意味構造において、動作主による動作のあり方がある一定のあり方に特定化されている」(佐藤2005: 174)ことである。

台灣日語教育學報第三十二期

不成立、つまり、絶対他動詞になるということである。例えば、「ペンキをつける」と「ペンキを塗る」を比べると、前者の場合は、(20)(21)が示すように動作主がどのようなやり方で動作してもよく、意図した結果を達成していれば問題はない。これに対し、(22)～(25)が示すように「塗る」の場合は、動作主の動きのあり方がどのようなものでも構わないというわけにはいかず、動作主が対象の表面と平行に自分の身体部分を動かした場合にしか使うことができないとしている。

(20)（ハケをペンキにひたして壁に着色した場合）
　太郎が壁にペンキをつけた。
(21)（バケツ入りのペンキを壁に投げかけて着色した場合）
　太郎が壁にペンキをつけた。
(22)（ハケをペンキにひたして、壁に着色した場合）
　太郎が壁にペンキを塗った。
(23)（ペンキ入りのスプレーを壁に平行に動かして着色した場合）
　太郎が壁にペンキを塗った。
(24)（バケツ入りのペンキを壁に投げかけて着色した場合）
　？太郎が壁にペンキを塗った。
(25)（スプレーのボタンを一押しして着色した場合）
　？太郎が壁にペンキを塗った。
（佐藤 2005：174,176-177）

対応する自動詞用法を持たない「切る」は「絶対他動詞」と見なすことができるが、特定の道具や方法を必要とする動作は、動作の様態が指定されるので、動作主が事態のプロセスに関与するイメージが強く動作の結果のみに焦点を当てるのが難しい。そのため、対応する自動詞用法が成立しにくいのである。

次に「切る」の意味が抽象化した場合を見る。本稿では、「切る」のヲ格名詞が抽象的な概念を表す場合や、「切る」の動作的な意味を失う場合、その意味が抽象化したと判断する。例えば、19.「＜人＞が＜通

台灣日語教育學報第三十一号

信・接続＞を切る」の意味に分類される「電話を切る」は、ヲ格名詞「電話」が電話機ではなく「通信」という抽象的な概念を表すので意味が抽象化したと言える。また、例えば、10.「＜人・組織＞が＜人・組織＞を切る」に分類される「選手を切る」は、「切る」が「やめさせる」の意味になり動作的な意味を失うので、意味が抽象化したものに分類する。

「切る」の意味が抽象化した場合、上記で見た対応する自動詞用法を持たない他動詞用法から派生した意味も自動詞用法を持たない。どの意味から派生するかは『基本動詞ハンドブック』の記述による。

8.＜人＞が＜社会＞を斬る（7.「＜人＞が＜人＞を切る」の派生意味）

(17)コメンテーターは厳しい言葉で政策を切った。(*政策が切れた)

10.＜人・組織＞が＜人・組織＞を切る（9.「＜人＞が＜患部＞を切る」の派生意味）

(18)最近監督は成績不振の選手を次々に切っているが、チームの弱体化につながるのではないかと心配だ。(#選手が切れている)

11.＜人＞が＜無駄＞を切る（9.「＜人＞が＜患部＞を切る」の派生意味）

(19)ずいぶん無駄な出費を切っているつもりだが、家計は楽にならない。(*出費が切れている)

上記の意味が抽象化した「切る」の場合、特定の道具や方法を使うことが必ずしも感じられるとは限らない。例えば、「反対派を切る」「無駄の出費を切る」などの動作は特定の道具や方法と連想しにくい。これらの意味に対応する自動詞用法がないのは、「切る」の動作的な意味が抽象化したが、派生もとの意味とのつながりが感じられるからと考えられる。抽象化した上記の「切る」の意味は単に「不要な部分をなくす」だけでなく、8.の意味には「切る」の動作から生じる「厳しく、鋭い様子」という意味が含まれ、10.と11.の「切る」は「やめさせる」や「なくす」が使われる場合と比べて「強硬な手段を使う」という意

台灣日語教育學報第三十一期

味があり、いずれも特定の道具が使われる派生もの意味とのつながりが感じられる。

一方、抽象化した「切る」の意味の多くは、次の例が示すように、対応する自動詞用法を持つ。17.18.19.は「電源や接続をオフの状態にする」、20.は「言語活動をやめる」、21.22.は「契約やつながりなどをやめる」、24.は「期間や数量を限定する」の意味を表し、「不要な部分やものを切り取る」の意味を表す上記の 8.10.11.の意味と比べると、「対象への影響(affectedness of object)[7]」が低いものである。これらの意味は、「切る」の動作性が上記の意味と比べてさらに薄くなったため結果状態への焦点化が可能になるのである。

17. ＜人＞が＜エネルギー＞を切る

(20)電気料金を滞納して電気を切られた。

17. ＜エネルギー＞が切れる[8]

(21)一般に、こたつにはサーモスタットがついていて、一定温度まで上がると自動的に電気が切れ、下がると再び電気が通る。(BCCWJ)

18. ＜人＞が＜電源・装置・機器・機能＞を切る

(22)危険ですから、必ず電源を切ってから作業に取り掛かってください。

7. ＜電源・装置・機器・機能＞が切れる

(23)「あれ、空調が切れているんじゃない？」「電源が自動的に切れ

[7] Hopper and Thompson (1980) が挙げた「他動性 (transitivity)」の十個の特徴のうちの一つである。Hopper and Thompson (1980) は、自他動詞を区別せず他動性という連続的な尺度で捉えているが、他動性が高い動作は対象への影響が全体的で、他動性が低い動作は対象への影響が部分的であるとしている。「対象への影響」が低くなるということは文や文脈の他動性が低くなることを意味している。

[8] 『基本動詞ハンドブック』では 17.「＜人＞が＜エネルギー＞を切る」の意味を「人が電流など流れているものを止める」と記述し、その共起する名詞に「電流、電圧、火、電気料金」を挙げているが、17.「＜エネルギー＞が切れる」の意味を「ものや人を動かしているエネルギーが使い尽くされてなくなる」とし、共起する名詞に「電池、力、バッテリー、充電、エネルギー、スタミナ」を挙げている。この意味に「電気が切れる」の用例が示されていないので、BCCWJ から取った用例を使う。

台灣日語教育學報第三十一期

たみたい。」

19. ＜人＞が＜通信・接続＞を切る

(24)彼女に一方的に電話を切られた。

8. ＜通信・接続＞が切れる

(25)彼女からの電話が一方的に切れた。

20. ＜人＞が＜言語活動＞を切る

(26)先生はそこで言葉をお切りになると、ハンカチで目を押さえられた。

9. ＜言語活動＞が切れる

(27)先生の話はそこで切れた。見ると、ハンカチで目を押さえられていた。

21. ＜人・組織＞が＜契約・支援＞を切る

(28)そちらが一方的に契約を切られるつもりなら、法的な手段に訴えますよ。

12. ＜契約・保障・資格・権利・支援＞が切れる

(29)来年雇用契約が切れるので、今から仕事を探さなければならない。

22. ＜人＞が＜人・組織＞と＜つながり＞を切る

(30)暴力団とのつながりを切りたくても、簡単には切らせてくれない。

10. ＜人・組織＞と＜つながり＞が切れる

(31)弁護士の仲介で暴力団とのつながりが切れて、心底ほっとしている。

24. ＜人・組織＞が＜数量＞を切る

(32)この講座、人気があると思うから、募集期間をもう少し短めに切ろう。

11. ＜制限時間＞が切れる[9]

[9]「切る」の 24.「＜人・組織＞が＜数量＞を切る」は、「切れる」の 11.「＜制限時間＞が切れる」と意味が対応するのが目的語が＜期間＞（期間／期限／任期）を表す場合であり、目的語が＜数量＞（数量／～数）を表す場合は両者の意味が対応しない。

台灣日語教育學報第三十一号

(33)雇用期間が切れるまでに、できるだけ実績を積んでいい転職を目指したい。

以上の説明をまとめると、「切る」の意味が抽象化した場合、対応する自動詞用法を持たない他動詞用法から派生した意味も自動詞用法を持たない。これらの意味は、「切る」の動作から生じる「厳しく、鋭い様子」という意味があったり、「強硬な手段を使う」という意味が含まれるなど、特定の道具が使われる派生もとの意味とのつながりが感じられるものである。一方、抽象化した「切る」の意味の多くは、対応する自動詞用法を持つ。これらの意味は「対象への影響」が低いものであり、動作性が薄くなったため、結果状態への焦点化が可能になるのである。

4.3「切れる」が「切る」と意味が対応しない場合

この節では、「切れる」に視点を置きどのような場合に対応する他動詞用法を持たないかを見る。西尾（1988）によると、「切る」「切れる」は「切る→切れる」の派生関係であるが、「切る」から派生された「切れる」は意味が多義化し、それで「切る」と対応しない意味が生じるのではないかと考えられる。「切る」と対応しない「切れる」の意味は大きく二種類に分けられる。一つは状態を自然現象として扱う場合であり、もう一つは「切れる」が持つ動作的な意味を用いて人間の動作に喩える場合である。まず前者を見る。

次の「切れる」の 5.6.13.[10]16.18.は「～が切れる」の事態が自然現象として捉えられるものである。5.「＜画像＞が切れる」は、画像の一部が欠けるという意味を表すが、その状態になるのは様々な原因が考えられ、その引き起こし手（causer）が特定できないので、自然現象として扱われるのである。つまり、画像が一部欠けることを自然現象のように外力でコントロールできない現象として扱うことである。

[10] 「切れる」の 13.「＜薬・効力＞が切れる」について、例えば「麻酔が切れる」は「麻酔の効力が切れる」の意味を表すので、抽象化した意味に分類する。

台灣日語教育學報第三十一期

6.「＜連なっているもの＞が切れる」の意味について、「切れる」の主語に来るのは「道、舗装、山、樹林、木立、家並み、町並み、雲、車、流れ、人波、人通り」[11]など自然物を表す名詞が多く、それ以外の名詞も例えば「家並み」「車の流れ」などが規模が壮大でその状態を変えるものが難しいものである。ここからこの意味を外力でコントロールできない自然現象のように捉えることが分かる。13.「＜薬・効力＞が切れる」、16.「＜もの・燃料＞が切れる」について、薬の効く期間や在庫、燃料の量は予め人為的に設定されるものであり、時間とともに効力や分量が自然に終わるので、そのプロセスはコントロールできない。18.「＜移動するもの・道＞が＜方向＞に切れる」について、主語名詞に来るのは「乗り物・飛球」などであるが、例えばボールなどを飛ばすには外力が必要であるが、いったん動作が始まると自らの力で動くことになるのでそのプロセスをコントロールできない。

5. ＜画像＞が切れる

(34)HP 上にアップした画像の一部が切れていたので貼りなおした。(*画像を切る)

6. ＜連なっているもの＞が切れる

(35)なかなか車の流れが切れなくて、道路を渡るのが難しい。(*車の流れを切る)

13. ＜薬・効力＞が切れる

(36)麻酔が切れたとたん、再び激しい痛みに見舞われた。(*麻酔を切る)

16. ＜もの・燃料＞が切れる

(37)「この本がほしいんですけど」「今、在庫が切れているので、1週間ほど待ってもらうことになりますけどいいですか？」(*在庫を切る)

18. ＜移動するもの・道＞が＜方向＞に切れる

[11]『基本動詞ハンドブック』の記述によるものである。

台灣日語教育學報第三十一号

(38)田中、打ちました。どうでしょう。若干、左に切れているでしょうか…ファールです。(*ボールを右に切る)

上記の意味の多くは、視覚で捉えた現象をそのまま報告する、いわゆる「現象描写文」で使われる。仁田（1999:122）は「現象描写文」とは「ある時空の元に生起、存在する現象をそのまま主観の加工を加えないで言語表現化して述べ伝えたものである」と定義している。「切る」と意味が対応しない「切れる」の意味の多くはある状態を自然現象として扱いそれを報告する、いわゆる「現象描写文」という性質がある。しかし、4－2 節で見たように、「切る」と意味が対応する「切れる」の多くも「現象描写文」である（次例参照）。

1．＜もの＞が切れる

(39)「あ！靴ひもが切れちゃった」「切れたところを結べば大丈夫。歩けるよ」

(40)「あれ、この紙、切れているよ」「さっきその上に置いていた紙をカッターで切った時に、一緒に切れちゃったのかも。」

その違いは「～が切れる」の「コントロール性」にあると考えられる。ひもや紙などのものを分断される状態にするのはそれほど難しいことではなく、外力を加えることにより達成できる状態なので対応する他動詞用法が成立する。これに対し、5.6.13.16.18.の意味を表す文は、自然現象のように外力でコントロールできない現象として扱われるので、対応する他動詞用法を持たない。例えば、5.「＜画像＞が切れる」について、目的語の「画像」などが機械的な方法を通じて眼前に映し出されるので、その一部を欠ける原因を特定するのが難しく、自然現象として扱われるのである。「切れる」の 6.13.16.18.についても同じようなことが言える。

早津(1987)は、有対自動詞（対応する他動詞にある自動詞）について考察し、「有対自動詞は、働きかけによってひきおこしうる非情物の

台灣日語教育學報第三十一号

変化を、有情物の存在とは無関係に、その非情物を主語として叙述する動詞である」(p.102) と指摘している。有対自動詞の主体の変化は「働きかけによってひきおこしうる」ものでなければならないので、外力でコントロールできない事態は働きかけによる状態の変化が起こりえないため、対応する他動詞用法が難しいと考えられる。

次に「切れる」が持つ「切断される」という意味を用いて人間の動作に喩える場合を見る。「切れる」の 15.は「平静にみえていた人が、突然、異常な様子で怒りだす」の意味を表している。「切れる」の動作的な意味は 1.「＜もの＞が切れる」(「一続きのものが、力が掛かって離れた状態になる」) であるが、15. の意味は 1.の動作的な意味を用いて人間の「何らかのきっかけで普段の理性とのつながりが断つ」という動作に喩えることから生じる意味であると考えられる。人間を主語に取るので、対応する他動詞用法を持たない。この場合は、非能格動詞と同じようにかわりに自動詞の使役形が使われる ((42)参照)。

15. ＜人＞が切れる

(41)佐藤さんは普段はおとなしいが、キレると怖い。

(42)「このままでは日本に帰れない」との思いが、いい意味で彼をキレさせたのかもしれないし、(後略)。　(BCCWJ)

以上の説明をまとめると、「切れる」が「切る」と意味が対応しないのは、状態を自然現象として扱う場合と「切れる」の動作的な意味を用いて人間の動作に喩える場合である。前者はある状態を自然現象のように外力でコントロールできない現象として扱うので、対応する他動詞用法を持たない。後者は、人間を主語に取るので対応する他動詞用法を持たない。自然現象は自然に起きる現象であり使役の概念そのもの自体が存在しない。これに対し、人間を主語に取る場合は使役の概念が成り立つが、日本語ではその概念を表すのに他動詞ではなく自動詞の使役形が使われる。つまり、前者は自然現象に使役概念が存在しないという一般的な原理による意味の不対応であるが、後者は言語

台灣日語教育學報第三十一期

の体系による意味の不対応である。

4．4 非典型的な他動詞文で使われる「切る」の場合

「切る」が無生物主語他動詞文や再帰構文という非典型的な他動詞文で使われる場合がある。これらの構文は意味的に自動詞に近いので、自動詞用法を持つか否かが問題となる。まず、無生物主語他動詞文と再帰構文が非典型的な他動詞文であることを見る。井上（1994）は 9 種の他動詞文を取り上げその他動性を分析している。典型的な他動詞文（「動作主他動詞文」）は「意図的動作」と「被動者の変化」という意味特徴を持つが、その二つの特徴のうちの一つしか持っていない、或いは、両方の特徴を欠落したものが典型的な他動詞文からはずれると指摘している。9 種の他動詞文のうち、「物理力他動詞文」（「津波が海浜の部落を襲った」）、「原因他動詞文」（「過度の野心が彼の寿命を縮めた」）、「道具他動詞文」（「白い布が机を覆っていた」）は無生物主語文であるが、それらの構文は「被動者の変化」を起こしたものの、（動作主の）「意図的動作」ではないため、非典型的な他動詞文であるとしている。[12]

再帰構文について、仁田（1982：80）は「再帰」を「動作主から出た働きかけが結局は動作主自身に戻って来ることによって、動作が完結するといった現象」と定義し、再帰用法の動詞を含む構文を「再帰構文」と呼んでいる。

(43)子どもは手を叩いて喜んだ。　　（仁田 1982：87）

仁田（1982）は、再帰動詞や再帰構文は典型的な他動詞が有する＜他者への働きかけ＞とった意味特徴を持たず、「典型的な他動詞からはずれ、自動詞に近づいた存在である」（p. 81）と述べている。また、

[12]9 種の他動詞文のうち「優位関係他動詞文」（「今回の提案はいくつかの問題を含んでいる」）も無生物主語文であるが、「意図的な動作」「被動者の変化」の特徴がともに欠落している。

台灣日語教育學報第三十一号

再帰構文の特徴について、ヲ格成分が動作主に現に付随している動作の体の一部を表す名詞類によって形成されているということを指摘し、「気持ち、心」といった心理的なものも含まれるとしている。このように、無生物主語他動詞文も再帰構文も、「X が Y を他動詞」という他動詞文の構造を持っているが、意味的に典型的な他動詞からはずれて自動詞に近いことが分かる。

「切る」の主語が無生物主語の場合、(44)～(47)のように「切る」の主語名詞が事態の原因を表す場合は対応する自動詞用法を持つが、それ以外の場合は自動詞用法を持たないということが分かる。例えば、(44)の「川の水が土手を切る」の場合、「切る」の主語名詞「川の水」が「土手の一部が崩れる」という事態を引き起こす原因を表すため、「川の水で土手が切れる」のように言い換えることができる。この場合は自動詞用法が成立する。これに対し、(46)では主語名詞「道」がカーブの形をする原因ではなく、(47)では主語名詞「所持金」が千円に達していない状態を引き起こす原因でもない。これらの文では「カーブを切っている」「千円を切っている」が主語名詞「国道」「所持金」の性質や状態を述べており[13]、「切る」の動作性を完全に失っているので、対応する自動詞用法を持たない。

【対応する自動詞用法を持つ】

3．＜水・土＞が＜堰＞を切る

(44)台風による大雨で、川の水が土手を切って市街地に流れ込んだ。

3．＜堰＞が切れる

(45)台風による大雨で土手が切れ、川の水が市街地に流れ込んだ。

【対応する自動詞用法を持たない】

26．＜乗り物・道＞が＜コース＞を切る

[13]熊(2009)では無対他動詞が述語となる無生物主語他動詞文を考察しているが、その一つに主語の性質または状態を表すものを挙げている。

(ｉ)インスーとの再会はまたもや過去との再会を意味している。

(熊 2009: 155)

また、熊(2009)の調査から無対他動詞が述語となる場合（有対他動詞と比べて)、無生物名詞は主語になりやすいことが明らかとなった。

台灣日語教育學報第三十一号

(46)国道はそこから右に大きくカーブを切っている。(*カーブが切れている)

28. ＜値・日数＞が＜数値・基準＞を切る

(47)所持金が千円を切ってしまった。もう野宿するしかない。(*千円が切れてしまった)

次に「切る」の再帰的用法を表す意味を見る。次の例が示すように、「切る」の 5.6.23.は再帰的な用法であるが、すべて「切れる」と意味が対応していることが分かる。

5. ＜人＞が＜刃物状のもの・原因＞で＜身体部位＞を切る

(48) 私は昨日、割れたガラスで頬を切って、3 針縫った。

2. ＜身体部位＞が切れる

(49)私は昨日、割れたガラスに触れて頬が切れて、３針縫った。

6. ＜人＞が＜身体部位（線状）＞を切る

(50)「足の靭帯を切るとどうなるのですか？」「ほとんどの場合、普通に歩けなくなります」

(51)「足首の靭帯が二本切れてるって、医者が両親に話してたわ」マディはささやいた。　(BCCWJ)

23. ＜人＞が＜精神・気持ち＞を切る

(52)彼女への気持ちを切ろうとしたけど、どうしても切れなかった。

14. ＜精神・気持ち＞が切れる

(53)その子は母親の姿を見つけると、張りつめていた気持ちが切れたのか、ワンワン泣き出した。

このように、「切る」が無生物主語他動詞文や再帰構文という非典型的な他動詞文で使われる場合、「切る」が完全に動作的な意味を失い物事の性質や状態を表す場合（意味 26.28.）を除いて、対応する自動詞用法を持つことが分かる。これは、これらの非典型的な他動詞文は他動性が低く、自動詞に近いから対応する自動詞用法が成立しやすいか

台灣日語教育學報第三十一号

らである。「切る」が動作的な意味を失い物事の性質や状態を表す場合は、動詞性自体を失い形容詞に近い性質を持つ。この意味では次に述べる慣用句化したものと連続的である。

4．5 慣用句化による「切る」「切れる」の意味の不対応

「切る」「切れる」の意味のうち、慣用句化することにより意味が対応しないものがある。慣用句は意味的・文法的な制約を受けるものであり、例えば、修飾語の添加や挿入が難しいことや語順の変更はほとんど許されないなど、また、肯定・否定、あるいは受け身・使役などの表現に制約を受けるなどである（宮地 1982）。本稿では、何らかの意味的や文法的な制約がかかる場合、意味が慣用句化したものとする。例えば、(54)の「風を切る」は「風を切るように」のような比喩的な意味に変化し動作主の行う動作ではないため、文をそのまま切るのが不自然である。また、(55)の「切れる」は「刃物が鋭利で切れ味がよい」のように意味が形容詞化したため、ル形で使われるのが一般的である。このような用法は慣用句化したと考えられる。[14]

(54)a. ランナーたちは風を切るようにして駆け抜けていった。
　　b.?ランナーたちが風を切った。
(55)a. これは本当によく切れる刀だ。
　　b.*これは本当によく切れた刀だ。

次の「切る」「切れる」の意味は慣用句化したと考えられるが、それぞれが対応す他動詞用法、あるいは自動詞用法がない。形で対応する

[14]審査委員から「切れる刀」「切れた刀」、「包丁が切れない」などは慣用句化の例として適切ではないという指摘を受けた。宮地（1982）の定義によると、「風を切る」「波を切る」は「比喩的慣用句」、「頭が切れる」は「連語成句的慣用句」になるが、「刀が切れる」はその主語が身体語彙や心情語彙ではなく確かに典型的な慣用句とは言えない。しかし、「刀が切れる」と「頭が切れる」は意味的なつながりが感じられ、また、『基本動詞ハンドブック』でも 20.「＜人＞は（頭が）切れる」は 19.「＜刃物＞は切れる」の派生義として扱っているため、本稿では 19.「＜刃物＞は切れる」の用法も慣用句化したものと扱う。

台灣日語教育學報第三十一期

のはそれぞれ「波が切れる」「包丁を切る」「頭を切る」の表現になるが、それらの表現の意味は「切る」「切れる」の意味と対応していない。[15]

16. ＜人・乗り物・もの＞が＜空気・水＞を切る

(56)大海原を船は波を切って進んでいく。

19. ＜刃物＞は切れる

(57) 包丁が切れないと料理の味も落ちる。

20. ＜人＞は（頭が）切れる

(58)ちょっと頭が切れるからって、偉そうにしないでほしい。

このように、「切る」「切れる」の意味が慣用句化した場合、対応する自動詞用法、あるいは他動詞用法が成立しないことが分かる。宮地(1982)は、動詞慣用句の自他を調べ、「腰を抜かす」「腰が抜ける」のような自他対応を持つものが全体の 15%に過ぎず、自動詞形専用・他動詞形専用のものの方が圧倒的に多く、慣用句の固定度が高いことを指摘している。上記で見た動詞の意味が慣用句化した場合も、固定度が高いことから対応する自他動詞表現を持たないのである。

5. 結論

本稿は『基本動詞ハンドブック』の記述をもとに「切る」「切れる」の意味の対応・不対応を考察した。「切る」から「切れる」が派生されると指摘されているが、それぞれが意味拡張を経て多義語になっているため、以上で見たようにその対応状況がかなり複雑である。

「切る」が具体的な動作の意味を表す場合、特定の道具や方法を用いて動作を完遂させる事態が対応する自動詞用法を持たない。これは

[15]例えば、BCCWJ では「波が切れる」の例が 1 例あるが、「切れる」は意味 6.「＜連なっているもの＞が切れる」を表し、この意味と対応していない。
（ｉ）サイズアップして、切れた波も多く、集中的に乗る事が出来ました。＼（＾－＾）／でも、その後は波が厚くなり、サイズも下がって、たちまち乗れなくてなってしまいました。(BCCWJ)

台灣日語教育學報第三十一号

特定の道具や方法を用いると、動作主が事態のプロセスに関与するイメージが強く、結果状態のみに焦点を当てることが難しいからである。逆に、「切る」が道具や方法を指定しないものはその自動詞用法が成立する。一方、「切る」の意味が抽象化した場合、特定の道具や方法を用いる動作を表す意味から派生される意味は、派生もとの意味とのつながりが強く結果状態に焦点を当てることが難しいため、対応する自動詞用法を持たない。抽象化した「切る」の意味の多くは対応する自動詞用法を持つが、それらが「対象への影響」が薄いため、結果状態への焦点化が可能となる。一方、「切れる」から「切る」との対応関係を見ると、状態を自然現象として扱う場合や、「切れる」が持つ動作的な意味を用いて人間の動作に喩える場合は対応する他動詞用法を持たない。前者はある状態を自然現象のように外力でコントロールできない現象として扱う、後者は、人間を主語に取るので対応する他動詞用法を持たない。また、無生物主語他動詞文、再帰構文のような非典型的な他動詞文は自動詞文に近いので、「切る」が完全に動作的な意味を失い物事の性質や状態を表す場合を除いて、対応する自動詞用法を持つ。意味が慣用句化した「切る」「切れる」の場合は、意味の固定化が高く対応する自他動詞用法がない。

冒頭で述べたように、個別の動詞ペアの意味的対応を考察したものは、辞書の意味記述や作例に頼るので意味の記述が体系化されておらず、一方、自他交替の観点で取り上げるものは一部の用法しか扱っておらず、日本語教育への応用が難しい。本稿は、意味数が多く対応状況が複雑な「切る」「切れる」を対象に、コーパスとコーパスツールを用いてその意味の対応・不対応を記述した。今後はさらに多くの自他動詞ペアを考察し、日本語の自他動詞の意味的な対応状況を明らかにする必要があると思われる。

台灣日語教育學報第三十一期

参考文献

赤瀬川史朗、プラシャント・パルデシ、今井新悟(2016)『日本語コーパス活用入門－NINJAL-LWP 実践ガイドー』大修館書店

井上和子(1995)「他動性と使役構文」『言語変容に関する体系的研究及びその日本語教育への応用』平成６年度科学研究補助金（一般研究）研究結果報告書　pp.109-136
影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版
佐藤聖(2001)「日本語における自他交替「切る」「切れる」と語彙概念構造」『秋田県立大学総合科学研究彙報』2 pp.35-49
佐藤琢三(2005)『自動詞文と他動詞文の意味論』笠間書院
須賀一好(2000)「日本語動詞の自他対応における意味と形態との相関」『日英語の自他交替』ひつじ書房　pp.111-131
西尾寅行(1988)『現代語彙の研究』明治書院
仁田義雄(1982)「再帰動詞、再帰用法―Lexico-Syntax の姿勢から」『日本語教育』47 pp.79-90
仁田義雄(1999)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
沼田善子(1988)「多義的動詞の自・他対応－「あがる・あげる」を例として―」『日本語教育論集』5　国立国語研究所日本語教育センター　pp.1-20
沼田善子(1989)「日本語動詞　自・他の意味的対応(1)―多義語における対応の欠落から―」『研究報告集』10　国立国語研究所 pp.193-215
早津恵美子(1987)「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』6 京都大学言語学研究会 pp.79-109
三井正孝(1992)「自他対応の意味的類型」『日本語と日本文学』16 筑波大学国語国文学会 pp.21-30
宮地裕(1982)『慣用句の意味と用法』明治書院
鷲尾龍一・三原健一(1997)『ヴォイスとアスペクト』研究社
熊鶯(2009)『鍵がドアをあけた―日本語の無生物主語他動詞文へのアプローチ』笠間書院
Hopper, P.J. and S.A. Thompson. 1980. “Transitivity in Grammar and Discourse,” *Language 56*:251-99.
Matsumoto, Yo. 2000. “Causative alternation in English and Japanese:

台灣日語教育學報第三十一号

Review article on *Dooshi imiron* by Taro Kageyama," *English Linguistics 17*:160-192.

付記：本稿は「以語意對應關係為本的日語自他動詞的類型化研究」（科技部 106-2410-H-004-113-）の研究成果の一部である。また、査読の先生方から有益なコメントをいただき、記して心から御礼を申し上げたい。

台灣日語教育學報第三十一号